

本港区エリアグランドデザインの策定経緯，概要

1 策定経緯

- 本港区エリアの現状分析，活用方策の検討及びケーススタディを行い，「平成29年度調査報告」として公表（H30.2）

※ 民間提案・対話(サウンディング調査)の実施結果（抜粋）〈応募団体：計18団体〉

導入機能	提案団体数	主な活用方策の提案
物販機能	10団体	複合商業施設，小規模な店舗群
飲食機能	11団体	海辺の立地を活かしたカフェやレストラン等
娯楽機能	7団体	エンターテインメント施設や地域性を活かしたテーマパーク
宿泊機能	6団体	高級ホテル
観光機能	6団体	観光案内施設
インバウンド対応機能	3団体	クルーズ船受入対応（CIQターミナル）
交流機能	9団体	コンベンション施設，スポーツ施設，イベントスペース
健康増進機能	5団体	地域性を活かした温浴施設
その他機能	9団体	駐車場や交通結節点の整備

- 有識者や経済界等で構成する，本港区エリアまちづくり検討委員会の開催（H30.5～11（計4回））
- 本港区エリアまちづくりに関する民間提案の公募（H30.5～8）
- 本港区エリアまちづくり検討委員会報告（H30.11）
- グランドデザイン(案)に係るパブリック・コメントの実施（H30.12～H31.1）
- グランドデザインの策定，公表（H31.2）

2 概要

本港区エリアについては，民間活力の導入を基本に，開発のコンセプトを次のとおりとしている。

【開発のコンセプト】

本港区エリアについて，
①かごしまの多彩な魅力を発信する人・モノ・情報の交流拠点
②かごしまの魅力を体感できるエンターテインメント空間
③景観資源（錦江湾や桜島，歴史的建造物）を活かした魅力ある空間を要素として，年間365日，国内外の幅広い観光客や県民で賑わい，国際的な観光都市にふさわしい「来て見て感動する観光拠点」の形成を図る。

【開発のコンセプトの要素及び導入機能】 ※導入機能：主なもの(○)，望ましいもの(☆)

【要素1】かごしまの多彩な魅力を発信する人・モノ・情報の交流拠点

本港区エリアは離島航路等が就航する鹿児島県の海の玄関口であり，また，賑わいのある鹿児島中央駅地区から天文館地区の延長線上に位置する立地であることから，こうした地理的優位性を活かして，広大な県土に広がる自然豊かな島々をはじめ，県内各地域におけるかごしまの魅力を発信する交流拠点を目指します。

- 物販，飲食，観光，宿泊，交通拠点(路面電車など)，交流(イベント)など
- ☆離島をはじめとする県内各地域の魅力を発信する観光機能
- ☆クルーズ船寄港時の歓迎セレモニーや特産品販売等に対応できるスペース

【要素2】かごしまの魅力を体感できるエンターテインメント空間

本港区エリアは広大であり，開発のポテンシャルが高いことから，物販や飲食機能を中心とした複合的な施設にとどまらず，エンターテインメント性を高めるための娯楽施設や，滞在性を高めるための宿泊施設などの導入により，かごしまの魅力を五感で体感・堪能し感動できる空間を目指します。

- 物販，飲食，観光，娯楽，宿泊，交流(イベント,コンベンション),健康増進など
- ☆かごしまの食を堪能できる飲食機能

【要素3】景観資源（錦江湾や桜島，歴史的建造物）を活かした魅力ある空間

本港区エリアは錦江湾の広大な静穏海域や雄大な桜島などの美しい自然景観を望むとともに，歴史的建造物である鹿児島旧港施設等を有することから，これらの魅力を最大限に活かした魅力的な空間を目指します。

- 緑地，物販・飲食(小規模)など